



生徒が取り組むコロナウイルス感染症対策の

アクリルパーティション製作

昨年度より、建設科の課題研究「ものづくり木造班」ではコロナウイルス感染症対策のため、アクリルパーティション、足踏み式アルコール消毒台等の製作を行っています。今年度は職員室のパーティション（900×600H）を30枚製作しました。機械科の先生や生徒ともコラボし鋼製の脚を製作してもらいました。これによりスペースをとらず、高さ調整、下にコード類も通すことができるようになりました。

しかも木枠にはめ込んだ2mm厚のアクリル板で製作したのでしっかりとした物ができました。市販の5mm厚の物と比べると3分の1以下の価格で製作できます。

製作の様子



枠のカット作業



アクリル板への枠の取付作業

完成品



昨年度製



今年度製

生徒のコメント：人の役に立てるような物を作っていて、とても達成感があり、とても楽しいです。
初めての体験なので難しいですが、みんなと協力して頑張ります。

担当者 建設科 塚田啓介



米工 MAKERS

米工通信 第22号

令和3年6月18日

鳥取県立米子工業高等学校

JRC 部顧問 笹川恭子

ボランティア活動×米工

JRC (青少年赤十字) 部が取り組む

「ボランティア活動」と聞いて、みなさんはどんなことを思い浮かべますか? 「中学校の時に海岸清掃やったなあ」「皆生トライアスロンの給水ボランティアやったことある!」「ボランティアは自発的にやるもので強制ではないでしょ」「やりたい人やれる人だけがすればいいよね」などなど、いろんな声が聞こえてきそうですね。米工には、「ボランティア活動(奉仕活動)」を部活動として行う「JRC 部」があります。そんな米工 JRC の活動内容を紹介します。まずは、**JRC** について少し説明をしておきます。

Junior Red Cross (青少年赤十字) とは

赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人間に成長してほしいという願いから、赤十字連盟(現在の国際赤十字・赤新月社連盟)が青少年赤十字を創設することを決めました。

日本の青少年赤十字は1922年に滋賀県の守山尋常高等小学校で「少年赤十字」として誕生しました。JRC はそれから脈々と活動を続け、2022年に100周年を迎えます。

米工も日本の JRC も
来年が100周年!!

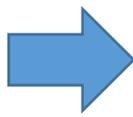
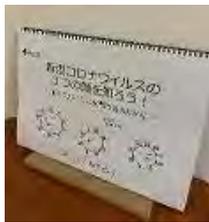
米工の JRC

昭和33年(1958年)に発足し、数々の活動に参加し、多くの先輩方を送り出してきました。

全国350万人の仲間のひとりとして、「人道」を中心に据え、人間の尊厳が守られる社会を構築し、地球市民として幅広い活動をするを目標にしています。

コロナ禍以前は、県内や西部地区の学校と合同で、海外の救援活動や国内の災害支援のための募金活動、献血推進キャンペーン、施設訪問や国際交流などに取り組んだり、リーダー研修会に参加して学習を重ねてきました。最近はおっぱら校内でできること、ポスターを作成して掲示したり、保健室からオファーされた仕事をしています。今年度は部員2名で活動中です。

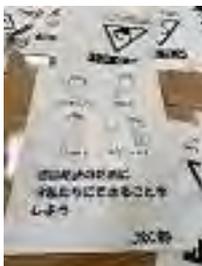
見たことがありますか? 昨年 JRC が「新型コロナウイルス」について知ってもらうために作った紙芝居です。実は、この紙芝居をおくスタンドは段ボール製で既に崩れかけていたのですが、**建設科3年の生徒の手によって見事にグレードアップ! 木製のものをたった一日で製作してくれました。さすが「ものづくり」の学校。**



トイレ内に掲示中!

感染防止の啓発ポスターを作成!

(これは保健室のオファーでした。)



ラミネート加工したものを各階のトイレ内に掲示するときに「ものづくり同好会」のメンバー(情報電子科3年)が手伝ってくれました

「感謝メッセージ」の仕上げ♥

先日、生徒のみなさんが医療従事者の方々へ寄せて書いた「感謝メッセージ」の一部を部員が模造紙に貼って仕上げました。養護の松本先生が学校医の高島病院に届けて病院内に掲示されたとのこと。

JRC の態度目標「気づき、考え、実行する」

JRC の実践目標「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」



米工生の「ものづくり」に向かう心構えは「思いやりの心」となって現れ、ボランティア精神も豊かだと感じます。JRC だけでなく生徒のみなさんの、これからの活動が楽しみです。

令和3年度鳥取県高等学校青少年赤十字交歓研修会開催!

6月13日に本校の会議室で開催されました。各高校の JRC 部の生徒・指導者が参加し日本赤十字社鳥取県支部や鳥取県青少年赤十字賛助奉仕団の方から「赤十字とは」「青少年赤十字とは」について学び、その後手話研修や献血についての学習、包帯法の学習と実践を行いました。

かつて米工の教壇に立ち長年 JRC 部の顧問を務められた金田千義先生も、賛助奉仕団の一員として指導に当たっておられました。





ある企業の社長さんが工業学科の生徒に話をしてくださったとき、「学校でのテストは60点でも合格だろうけど、企業では99点は不合格だよ！」とおっしゃいました。

99点は不良品？

さて、みなさんはこの意味がわかりましたか。会場にいた生徒たちは「?・・・」、この社長さんは何が言いたいのだろうかという顔をしていました。

企業のテストが200点満点ということではありません。100点満点のテストで99点ということは1点不足していますね。不足しているということは、それが少しのことであっても本来の意図していた製品に対して何か満たしていないところがあるということです。つまり1点でも足りなければ未完成の製品であり、「99点は不良品」と言われる理由なのです。企業にとって不



良品を出荷することはあり得ないことです。もしも不良品を出荷すれば、やがてはリコールへの対応による損失や信用の低下による自社製品への不買運動が想定されます。なによりも、そのわずかな不足分が原因で事故や怪我が発生すれば、尊い人命への影響も考えられます。本来、みなさんの幸せを願い、困りごとを解決しようと取り組んだはずの製品開発がみなさんを困らせることになっては元も子もありません。

生徒のみなさんは、実習や課題研究でのものづくりにどんな意識で取り組んでいますか？この程度でいいかという気持ちで取り組んでいませんか？プロになるためには、この社長の言葉のように、「妥協を許さず突き詰めてやるんだ！」という気持ちがまずは大切です。まだまだ未熟な技能のために、実際には100点満点の作品にはならないこともあるでしょう。しかし、どうしたら思い描いたものがつくれるのかを試行錯誤する意欲と分析力、仮説を立てる力が大切です。

また、ものづくりに取り組むとき、完成したと思ってもいきなりスイッチを入れたり動かしてみるのは「動くかな？」と不安になりますよね。どこかが干渉して動かなかったり、回路がショートして発熱したり、強度が不足して壊れたりすることも想定されます。ですから、完成したと思っても、もう一度ミスがないか各部分、全体を確認して、それから動作させる必要があるのです。



明後日から期末考査が始まります。テストもものづくりと同じです。できたから残り時間は寝よう、ではなく、どこかにミスはないかを確認してより完成度の高い答案に仕上げてください。その習慣が安全に100点満点のものづくりに取り組む精神を育ててくれます。

期末考査、頑張ってください！



米工 MAKERS

米工通信 第24号

令和3年6月23日

鳥取県立米子工業高等学校

E3担任 板持 俊博

電気科3年担任、バスケットボール部顧問の板持です。今日から始まる1学期期末考査。進路決定を間近に控える3年生にとっては、特に大事な考査です。一発勝負の本番で、自分の力を100%発揮するための心の持ち方(マインドセット)について、先日行われたバスケットボールの県総体のエピソードを交えて、お話ししたいと思います。

“ワクワク”こそ最強～成功のためのマインドセット～

こうありたい自分を強くイメージしよう

こんな時、どんな自分でありたいですか？

- オープンでのシュートチャンスがめぐってきた時
- アタック可能な1対1の局面になった時
- 1点を争う場面でフリースローをもらった時
- ショットクロック残りわずかでもボールが回ってきた時
- 相手の流れになってしまいそうな(なってしまった)時
- 流れを変えるために、途中交代で出場した時

こうありたい自分をイメージすると

“ワクワク”してきませんか？

その“ワクワク”こそ最強

やってきたことを出し切る

- ・ 「勝ちたい」「勝たなきゃ」ではなく
- ・ 「勝つ」ためにやってきたことを出し切る
- ・ ステップアップしてきた自分で勝負する
- ・ 挑戦と成長を積み重ねてきた日々に自信を持つ
- ・ “ワクワク”しながらその時を迎える

左は、6月12日から行われたバスケットボールの県総体、その**前日ミーティング**で使ったスライドです。

バスケ部は県総体3回戦で難敵・鳥取東高と対戦し、後半途中で12点のリードを許しながら、終盤にかけてじわじわと点差を詰め、残り1分を切って逆転に成功。最後は71-67で勝利しました。また、準決勝では鳥取西高との手に汗握る接戦を演じ、最後は72-74で敗れたものの、最後まで**接戦を楽しみ、のびのびとプレー**することができました。

ギリギリの勝負の中でも、縮こまったり弱気になったりせず、自分たちらしいプレーをやり切れたのは、左のようなマインドセットがあったからです。選手たちは、**不安や緊張やプレッシャーではなく、“ワクワク”した気持ち**で試合に臨みました。そして、**自分たちなら出来るというイメージ**を持ち、どんなに追い込まれても、ただひたすら**「やってきたことを出し切る」**ことだけに力を注ぎました。2試合の接戦の結果は勝ったり負けたりでしたが、負けた試合後も、チームに悲壮感はありませんでした。その結果、翌日の3位決定戦では、完全に気持ちを切り替えて自分たちのバスケットをやり切ることができ、シード校の一角・倉吉東高に対し、90-53で快勝することができたわけです。



さて、これは部活動だけではなく、今日からの定期考査や、9月以降の就職試験、進学試験にも通じる話だと思います。

“ワクワク”しながらその時を迎えることができれば最強です。「いい点を取らなければ」よりも、**「早く勉強の成果を試したい」**の方が、確実に実力を発揮できます。“ワクワク”は、不安や緊張やプレッシャーに勝ります。

とはいえ、本番をそういう気持ちで迎えるためには、そこまでの準備期間で、必要なことをちゃんと積み上げていなければなりません。**挑戦と成長を積み重ね、ステップアップしてきた日々に自信があるからこそ、勝負の場面で“ワクワク”が湧き出てくる。**試験勉強なんて一つもやっていない、という人は、残念ながら試験当日に“ワクワク”した気持ちは出てこないでしょう。逆にしっかりと準備をしてきた人は、「問題をスラスラと解いている自分」「高得点が取れて胸を張っている自分」をイメージし、**「早く試験を受けたくてたまらない」**というマインドを作ることができるはず。練習ではうまくいくのに本番に弱い人、いざという場面で緊張して力がなくなってしまう人、失敗したらどうしようと不安になってしまう人には、この**“ワクワク”を生み出す心の習慣**をおすすめします。



米工 MAKERS

米工通信 第25号

令和3年6月25日

鳥取県立米子工業高等学校

今年度より教員として勤務させて頂いています、M2副担任の三好涼太と申します。教科は、地歴・公民科を担当し、硬式野球部の顧問をしています。今回は、大学受験に失敗して迎えた1年間の浪人生活から学んだことについてお話しします。宜しくお願いします。



～浪人生活を経て～



私は、高校3年生のときに大学受験に失敗し、浪人という道を選びました。倉吉鴨水館（旧倉吉東高校専攻科）で、倉吉東高校を卒業した人たちを中心に色々な学校出身の人たちと1年間勉強しました。高校生ときは野球部に所属し、ほぼ毎日野球をする日々を過ごしていたため、毎日約10時間勉強する日々は正直つらかったです（笑）。

浪人生活の中で、自分自身を大きく変える出会いがありました。それは、当時、東京大学を目指して受験勉強に励み、見事合格を掴み取ったA君との出会いです。私は彼と1年間席が近く、彼の勉強に取り組む姿勢を間近で見っていました。倉吉鴨水館では、高校のときと同じく、授業を受け、放課後は各々が自主学習に取り組むのが1日のスケジュールでした。ただ、なかには、ある先生・科目の授業には出て、それ以外の授業には出席せず、自分の好きなことをしている人や全く授業に出席しない人もいました。その理由としては、自分の得意な科目だからだとか、自分でした方が効率が良いからと言っていたのを覚えています。彼らの共通点は、現役のときに点数が高くて自分に自信があり、上のレベルの大学を目指している人たちでした。そんな中、A君は、一切授業を抜けることなく全ての授業を受けきり、毎日コツコツ勉強に取り組んでいました。他方、授業を抜けていた人達は、集団で喋ることに夢中になっていました。その結果、A君は東京大学に合格し、授業を抜けていた人たちの多くは、第1志望の大学に合格できず、不本意ながら別の大学に進学していきました。

以上のことから言いたかったことは、謙虚に毎日コツコツ努力し続けることが目標達成の秘訣だということです。自信というのは、やる気上昇に繋がる反面、自信過剰になり傲慢になってしまう危険性もあります。東京大学に合格したA君は、先生方から学ぶという姿勢で、授業を一切抜けることなく黙々と当たり前のように学習に取り組んでいました。彼の姿を見て、目標達成には謙虚、かつ毎日の積み重ねが大事だと感じた私は、周りに流されず、彼の真似をして全ての授業に出席し、自主学習にも毎日励みました。その結果、私も国立大学に無事合格できました。

ぜひ米工生の皆さんには、進路実現のため、毎日の生活を大事にすること、そして「ぶれない」という気持ちで過ごして下さい。面倒くさい、遊びたいと思うのは当然ですし、私もそう思うときはあります。でも「やるときはやる」という気持ちで辛抱して続けることで、精神的にも技術的にも必ず力は付きます。勿論、努力が必ず実るとは限りません。「努力する」というのは、成功確率を1%でも上げるために行うものだと私は理解しています。日々の生活にがむしゃらに取り組み、充実した日々を過ごして下さい。皆さんのご活躍を期待しています！

担当者名 三好 涼太